

令和5年度 秋葉区自治協議会提案事業  
きらめきサポートプロジェクト事業実施報告書

令和5年11月17日

団体名 小須戸コミュニティ協議会

代表者 会長 木村 宗文

## 1. 提案事業名

小須戸まちなか演奏会～町屋とお寺と灯りと音楽

## 2. 事業内容

令和5年10月14日(土)、小須戸本町2丁目にある了専寺、旧町屋カフェわかば、町屋ギャラリー薩摩屋を会場として演奏会を開催した。会場には糸巻き行灯、雁木通りには秋の提灯、お寺の参道には小須戸小学校5年生が作った行灯を並べ、その脇にはワークショップの参加者が制作した竹灯籠と竹のオブジェを設置して灯りの演出を行った。当初の事業計画では新潟ブロードバンドテレビに依頼して、事前 PR や記録映像の作成を計画していたが、PR はチラシやインスタでの情報発信で行い、映像で費用をかけるよりも演奏会の中身を充実させたほうが良いとの考えから、出演者のへの謝礼や竹灯籠制作、設置、灯りの演出などへ費用を振り分けた。結果として、質の高い演奏者を呼ぶことができ、プログラムの内容的にも満足度の高い演奏会ができたと思う。

4年ぶりの開催ということで、来場者数の予測が難しかったが、チラシの配布、事前 PR や口コミの効果で各回とも満席となり、旧わかばでは立ち見で会場に入りきれないほどの盛況だった。また、来場者からは「こんなに素晴らしい演奏会を間近でしかも無料で聞くことができるなんてすごい」「大変素晴らしかった」「ぜひまた来年も開催してほしい」という声が多かった。

## 3. 総合評価(目的と成果)

今回のまちなか演奏会は、準備段階から多くの人に関わることで地域の一体感が醸成された。特に、小須戸小学校5年生の児童による行灯の制作は「小須戸アートプロジェクト」の作家が関わってくれたことで、子どもたちのアートへの関心が高まったと共に、自分たちの作った作品がまちなか演奏会というイベントで展示され、それを家族や友達と見に来るといった達成感を感じることができたと思う。

コミ協、学校、商店街、自治協、地域住民、たくさんのボランティアが一緒になってより魅力のある小須戸の「まちなか演奏会」ができたと思う。

## 4. 今後の取り組み(次年度以降)

次年度も今年度同様に地域や学校と協力して、より多くの人に関わるような演奏会にしていくと同時に、会場を本町2丁目界隈だけでなく、例えば横川や水田、新保など町中心部以外の場所でも演奏会を同時開催して広く地域の人から楽しんでもらえるようにしていきたい。

令和5年度 秋葉区自治協議会提案事業  
きらめきサポートプロジェクト事業実施報告書

令和5年3月15日  
団体名 NPO 法人はぐハグ  
代表者 小口 彩

1. 提案事業名

第1回聞き書き養成講座－国鉄と茶畑の歴史・文化を探る－

2. 事業内容

秋葉区独自の生業・資源を発掘し、地域の記憶を記録として集約し、次世代に継承する。これに加えて、秋葉区独自の生業・文化に携わってきた方々から、歴史・文化・風土に関する話を聞き、書き起こし、編集し、冊子にまとめる。こうした活動のできる人材を養成するとともに、ネットワークの形成を目的とする。

実施日：第1回 12月10日 第2回 1月14日 第3回 2月18日

時間：いずれも午前10時から12時

会場：新津図書館2階 研修室1・2

参加人数：延べ12名

3. 総合評価(目的と成果)

- ・目的である国鉄と茶畑に携わってきた方々からの語りを収集することができ、成果物として冊子にまとめることができた。
- ・講師も含め、回数を重ねる中で参加者間でのネットワークづくりを行うことができた。
- ・語り部の方にも喜んでいただくことができた。
- ・5名の参加者が聞き書きの手法を学び習得することができた。

4. 今後の取り組み(次年度以降)

- ・秋葉区の他の生業－具体的には花卉園芸、国鉄の別の部署、竹細工、駅弁、硝子、時計－に携わってきた方々のお話をまとめるとともに、冊子にし、さらに秋葉区の魅力を発掘していきたい。
- ・可能であれば、地域の中学生の探究の時間にも実践として取り入れていただくと世代間交流の機会としても活用することができる。学校での教職員のみなさんが活用しやすいよう、教材化も進めていきたい。

5. 実施状況写真



令和5年度 秋葉区自治協議会提案事業  
きらめきサポートプロジェクト事業実施報告書

令和6年3月17日

団体名 秋葉区ファミリーショー実行委員会

代表者 笹川 英雄

1. 提案事業名

アキハファミリーショー AKIHA FUJIN ROCK festival × DREAPYS

2. 事業内容

令和6年3月10日(日) 秋葉区文化会館にて、ファミリーショーを開催した。

保育士シンガーソングライターTAMi、保育アーティストチーム DREAPYS に加え、総勢 21 名のキッズキャストもステージに上がり、ダンス、ウクレレ/ピアノコンサート、ものづくりショー、マジックショー、しゃぼん玉パフォーマンス、手袋シアター等、様々な内容を盛り込んだファミリーショーをおこなった。

3. 総合評価(目的と成果)

第一公演は 270 名 (大人 140 名、こども 130 名)、第二公演は 282 名 (大人 149 名、こども 133 名) を動員した。

多くの子どもたちに様々なパフォーマンスを通じて、創造性や集中力を育む機会、感情を表現する手段を学び、社会性を向上させるきっかけを提供できた。保護者に対しても、子どもたちと共有できる豊かな体験を通じて、家族間の絆を深める機会を提供できたと考えられる。

また、秋葉区の特産品であるもち麦を PR するための「もち麦の歌」の披露や自治協議会の活動紹介、ブースの設置などを行い、もち麦と自治協議会の認知度向上に大きく貢献した。

4. 今後の取り組み(次年度以降)

今後もファミリー向けイベント、保育公演、子育て支援事業をおこない、地域活性化に尽力するとともに秋葉区が子育て世代にとってより一層住み良い街となるよう、活動を展開する。

5. 実施状況写真



令和5年度 秋葉区自治協議会提案事業  
「きらめきサポートプロジェクト」事業実施報告書

令和 6年 3月15日

団体名 新津中央コミュニティ協議会  
代表者 会長 中村信也

1 提案事業名

秋葉湖周辺案内看板設置事業

2 事業内容

新潟市で唯一の里山を持つ秋葉区の中でも古くから市民に親しまれてきたいわゆる秋葉山であるが、まだまだ名前は知っていてもそこに何があるのか知られていないところがある。そして数年前から秋葉山の秋葉湖周辺にMTBパークが作られたことを契機に2つのキャンプ場の周辺も整備され一昔前とは大きく変貌した。

そこで、この秋葉湖周辺が秋葉山丘陵の中心的存在であり市民散策にはうってつけの地域であることから、この変貌した秋葉湖周辺地域を詳細に知らせるために、大きな案内看板を見やすい場所に設置することとした。

案内看板は、次の場所である。

※ 秋葉地区の秋葉苑から下って秋葉湖の道路とT字路で交差する場所に設置した。



設置場所拡大図(現在地の左下赤枠の部分)



この⇒の先に設置

### 3 総合評価（目的と成果）

今から10年ほど前に当コミ協文化教養部会が『秋葉山をデザインしてみよう』というワークショップを行った時の参加者の一人が発した一言「秋葉山というのはすごく不親切な山なんですね！」がこの一連の事業のそもそもの原点である。

秋葉山及びその周辺が秋葉区民はもちろん区外から訪れた方々にもこの自然と文化に溢れた地区を迷うこと無く安心して散歩やウォーキングを楽しんでもらいたいとの思いで、平成28年度より分岐点地図や周辺案内地図を作成・設置してきた。

その枚数は、昨年までで19基を数えた。以前と比べ秋葉山中は格段に歩きやすくなったかと思う。この度の計画では初めは、秋葉湖畔の大きな案内地図1基と県道東島～小口線から秋葉湖へ入る入口を知らせる案内標識を1基の合計2基を作成する予定であったが、昨春からの諸物価高騰と予定より大きな案内看板を作ることとなり2m×1.5mのものを1基作るだけしかできなかった。

今回の目標は、『大きく変貌したキャンプ場周辺とMTBパーク』そして『熊沢公園～小口方面の地理的な位置関係』を知ってもらうことにある。見やすい場所に大きな案内地図でアピール効果は非常におおきいものとなっている。

### 4 今後の取り組み（次年度以降）

私たちの取り組みが始まってから今年でちょうど20基の分岐点案内図や周辺案内図を作った。楽しく散策ができる秋葉山となったかと思う。案内地図作りはこれで一段落したかと思う。今後は、この地区に市民を誘導する活動に力を入れるべきなのかも。まだまだこのエリアの良さ

を知らない区民が多い。少子高齢化に伴い老人達の健康寿命を延伸するプログラムが必須である。ハードからソフトへ活動を転換していく必要があるのかもしれない。

しかし、秋葉山の遊歩道には大きな欠点がある。メインの広い道路の部分以外は全く風通しが悪いのである。風通しが悪いと、ジメジメして虫が多く楽しく過ごすことができない。今の秋葉山は多くの部分は風通しが悪いエリアである。これを数年かけて計画的に伐採作業をしていく必要がある。

人がたくさん訪れる(里)山はどこでも気持ちいいほどの風通しがある。往時の秋葉山も、気持ちよい風が吹き抜ける素晴らしい山だったのだ。だから周辺市町村から多くの人を集めたのかもしれない。来年度以降については、当コミ協でワークショップを行い意見を取りまとめながら企画していく予定である。

## 5 実施状況写真（※ 別紙でも可）

秋葉町内から秋葉湖へぶつかるT字路の湖畔に建立



令和5年度 秋葉区自治協議会提案事業  
きらめきサポートプロジェクト事業実施報告書

令和6年 3月 15日

団体名 チョイ戦

代表者 齋藤綺

1. 提案事業名

「チョイ戦」

2. 事業内容

取り組み内容は主にフリースペースの運営と交流イベントの開催の2点である。

まず、フリースペース運営として、10月から1月の4か月間の月曜 17:00~19:00 と土曜 10:00~12:00 の時間帯で新津駅徒歩5分にある「灯心文庫」にて実施した。

利用方法はスペースのルールの範囲内で制限は設けませんが、来てくれた高校生、大学生と共に地域への想いを深めるアクティビティを行う時間を設ける。

アクティビティの詳細としては、“秋葉区”から派生するワードを考えるマインドマップの形式のものを作成する。

次に交流イベントとして、高校生・大学生の秋葉区への想いを大人とともに膨らませ、対話を通して実現に向けて動けるようにするイベントを2月3日に開催。

当日は13:00~16:30の時間で、ワークシートを活用しながらそれぞれの次なる一步を発表いただいた。

3. 総合評価(目的と成果)

目的：秋葉区では子どもと大人及び地域とのつながり、そしてその世代のアイデアを地域にまだまだ取り入れられていないことが大きな課題感としてあることが分かった。一方で、求められている若い世代、特に高校生は地域内で放課後に集まれる居場所を求めているものの実際にそのような場所が存在していない、また理想の地域像や実際に行動してみたいことなどの想いがある高校生・大学生も一定程度いるものの、想いを形にする力が足りないということが分かった。

本活動では、地域と高校生・大学生を繋ぎ、若い世代一人一人が自らの強い想いをもって地域で活躍できるプレイヤーとなるようなサポートを行うことを目的とする。

成果：フリースペースと主催したイベントに来てくれた高校生・大学生は3名ずつであった。

フリースペースには地域の方もあわせて約10名に立ち寄っていただいた。

イベントには、15名に参加(うち見学3名)いただき、理想に近づく一步を見つけるサポートを行うことができた。

活動のアイデアは、2月3日に開催したイベント内で、参加者(12名)分創出できた。

4. 今後の取り組み(次年度以降)

今年度の活動で得ることができた大学生の活動の種を、今後育んで行く予定でありミーティングでまずは進める。

ここに大学生だけでなく、地域の方をしっかりと絡めていけるよう、引き続き自治協議会の皆様との連携をはかっていきたい。ご検討のほどよろしくお願いたします。

また、フリースペースや高校生へのアプローチとしては、今年度知った、未来ビジョンの活動や探究授業のような既存の仕組み・取り組みと合わさることによって目的が達成できるよう、働きかけを行いたい。

## 5. 実施状況写真

